

## 2018Japan National Team Report ”選手”



報告者	クラブ 江の島ヨットクラブジュニア 学年 8 氏名 青木 零		
大会名	IODA アジア&オセアニア選手権		
開催地	ミャンマー		
大会期間	11.10~17		
セールNo	3200	最終順位	シルバー 19

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
  1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
  2. なるべく詳細に記入して下さい
  3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
  1. このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい
  2. 他国のOP艇を接近して撮影することを禁止します

気温、水温、ウエアについて	気温は30~38度位だった。水温はぬるくてウエアは水着で大丈夫。パドジャケはいらなかった。
海面(湖面)の特徴や風の傾向	普通なら北や西からの風が入ってくるらしいが、ハリケーンの影響で練習日1日目、レース1日目は東からの風がはいっていた。シーブリーズがはいってくると細かい波ができていた。体感期間中は微風~軽風の風が吹いていた。
セッティングで注意したこと	風が弱い中でのレースだったためランニングのときなどにしっかりスプリットを調節してしわをつくらないようにした。
セーリングで注意したこと	タイや中国の選手達はタックがうまかったため、それにおいてかれないようにタックする。また、波をしっかりケアしてスピードに気をつけた。
海上で練習したこと	男女にわかれてスベリ。一番遅れている人がタックをした方が有利になるように風が振れたらタックし、それに合わせて他の人がタックするのを繰り返す練習。コーチがついていなくてもできるように合宿のときにこの練習をした。

実際のスベリはどのようにでしたか？	みんなのレベルがあっていて合宿で練習したスベリ方をすることができた。
スタートは、どうでしたか？	外国の選手はみんなハンドリングがとても上手でスタートがうまく、その後のスピードも速いため、おいていかれることが多かった。
コース戦略はどのようにでしたか？	風が細かく振れるわけではなく、大きく振れるためどちらかに突っ込んだら良いように感じた。真ん中でコースをひくと最後に端から来た大群に抜かれることが多かった。
自分より上位の選手との違いは？	スタートはいつも有利な方からきれいにスタートしていきボートスピードが速かった。また、1上が悪くてもどんどん順位を上げていった。
国内の練習で役立ったこと	合宿で自分達だけでスベリをする練習をしていたため、海面に着いてすぐ練習できたりコーチがついていなくても練習できた。
国内の練習で足りなかったこと	船を洗うのが「ホース順番」など言っていて時間がかかった。他の国はまとめて洗ったりして片付けが速く、日本チームはだいたいいつも最後だった。
印象に残った外国選手は？	Panwa Boonnak という優勝したタイの選手で彼はどんなときも良い順位だった。だがどのレースも1上から良いわけではなく、もし悪い順位で回ったとしてもフィニッシュするころには上位争いをしていった。彼のセーリング技術と精神力の強さが印象に残っている。
行く前と、行ってからで違ったことはありましたか。	行く前はあまりチーム内でコミュニケーションをとれていなかったが、何日も生活していくうえでコミュニケーションをとるようになり、チームワークがうまれた。
今後の課題と目標は？	課題は外国の選手のようなハンドリングができるようになることと有利な海面を選び外国でも通用するような良いコースをひけるようになることだと感じた。目標はこれから更に高いところで戦い、良い順位をとること。
JODAへの要望	特になし
その他	特になし

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会